

令和 6 年度
第 2 回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和 7 年 2 月 25 日 (火)
午後 2 時 00 分～
場 所 水戸市総合教育研究所
2 階 研究室 5・6

みと好文カレッジ

【次 第】

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

- (1) 令和 6 年度みと好文カレッジ事業実施報告について
- (2) 令和 7 年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について
- (3) 令和 7 年度みと好文カレッジ事業実施計画（案）について
- (4) その他

4 閉 会

(1) 令和6年度みと好文カレッジ事業実施報告について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾の開催

ア 新任職員研修

○ 集合研修

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
4月22日(月)	①市民センターについて ②地域防災について ③生涯学習の推進について ④電送窓口関係について	①市民生活課職員 ②防災・危機管理課職員 ③みと好文カレッジ職員 ④市民課職員	本庁舎	新任所長及び 新任会計年度 任用職員(新 任でない希望 者を含む) 13人	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 23人

○ 訪問研修

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
6月	①市民センターの運営について ②生涯学習の推進について	みと好文カレッジ職員	各市民センター	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 前期9回 12人	新任所長及び 新任会計年度 任用職員 前期16回 18人 後期1回 1人

イ 全体研修

○ 集合研修

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 6月10日(月) ② 7月9日(火)	普通救命講習Ⅰ	一般社団法人 水戸地区救急普及 協会	① 総合教育 研究所 ② 千波市民 センター	市民センター 所長又は会計 年度任用職員 ①15人 ②12人	市民センター 所長又は会計 年度任用職員 ①16人 ②14人
6月24日(月)	熱中症の基本情報や 対策等について	大塚製薬株式会社 課長補佐 竹下 浩一	総合教育 研究所	市民センター 会計年度任用 職員 31人	—
11月6日(水)	コミュニケーション スキル向上について	株式会社RION 代表取締役 鷺田 美加	本庁舎	市民センター 所長 23人	「市民協働」を 誘う市民センタ ーの創造 市民センター 所長 29人
令和7年 1月7日(火)	同和問題(部落差別問 題)について	生涯学習課職員	本庁舎	市民センター 所長 27人	—

2月12日(水)	魅力的な講座の作り 方について	茨城県水戸生涯 学習センター 社会教育主事 宮本 裕介	桜川市民 センター	経験3年以内 の市民センタ ー会計年度任 用職員 15人	生涯学習講座 SDGsにつ いて 市民センタ ー所長又は会計 年度任用職員 28人
----------	--------------------	--------------------------------------	--------------	--	---

○ ブロック研修（意見交流会）

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
7月12日(金)	(南部ブロック) 市民センターにおけ る生涯学習事業等を 進める上で疑問に感 じていることについ て	みと好文カレッジ 職員	見川市民 センター	南部ブロック 会計年度任用 職員 6人	東部ブロック 会計年度任用 職員 7人
7月24日(水)	(中央ブロック) 市民センターにおけ る生涯学習事業等を 進める上で疑問に感 じていることについ て		常磐市民 センター	中央ブロック 会計年度任用 職員 5人	内原ブロック 会計年度任用 職員 4人

○ 訪問研修

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
8月～1月	市民センターにおけ る生涯学習事業の推 進方策等について	みと好文カレッジ 職員	各市民 センター	所長及び社会 教育事業担当 者 34回 37人	所長及び社会 教育事業担当 者 33回 36人

ウ 学習プログラム作成研修（ブロック研修）

月日・	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 5月29日(水)	(常澄ブロック) 現代的課題や地域課 題の見出し方や課題	みと好文カレッジ 職員	大場市民 センター	常澄ブロック 会計年度任用 職員 4人	北部ブロック 会計年度任用 職員 4人
② 6月25日(火)	解決のための学習プ ログラム作成に関す				
③ 7月12日(金)	る知識や技術を習得				
④ 8月23日(金)	する				

(2) 好文塾の開催

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 11月5日(火)	(常澄ブロック) 人生100年時代に向けて、今からできる家計	①ファイナンシャル プランナー 山口 京子	①② 稲荷第一 市民セン ター	常澄地区在住 の方	(北部ブロッ ク) 「健康寿命を 延ばそう！ ～毎日を若々 しく過ごすた めに～」
② 11月20日(水)	管理や資産形成・運用 と、相続に関する手続 き等、今後に係るお金 の基礎知識をプロか ら学ぶ	②ファイナンシャル プランナー 高村 浩子	③ 埼玉県 方面	定員 20人 応募者 19人 参加者 ①17人 ②18人 ③18人	① 笑いヨガ ～ 笑う門には元 氣来る～ ② 正しい姿勢で筋 力アップ！～歩 きで若さをキー プする～ ③ 移動学習 ～健康の秘訣 とは？～ 北部地区在住 の方
③ 12月12日(木)	「知っておきたいお 金と相続のはなし～ あなたとあなたの 家族のために～」 ① 人生100年時代のライ フプラン ちょっと した工夫で変わる 家計 ② 相続 はじめの一步 ～こんなにある！ 相続手続き～ ③ 移動学習 ～造幣局で の工場見学 身近な お金について学んで みましょう～	③－			定員 25人 応募者 23人 参加者 ①13人 ②13人 ③20人

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

ア 茨城しぐさ

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
希望校なし	「相互扶助」や「共生」 の精神を学び、「お互 いが仲良く、気持ちよ く生活する」ための方 策を考える	NPO法人 ひと・まちねっとわーく 宮澤 直美	—	—	堀原小学校 (授業参観) 4年生 46人 保護者 38人 下大野小学校 (授業参観) 4年生 13人 保護者 13人

イ 小中学生のデジタル機器との付き合い方

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
令和7年 1月25日(土)	小中学生の子を持つ保護者が、小中学生が安全にデジタル機器を使用するために注意すべきことを学習する	ICT支援員 石川 由紀子	—	市内小中学校に通う子を持つ保護者 定員 30人 応募者 4人 —	市内小中学校に通う子を持つ保護者 定員 30人 応募者 15人 参加者 9人

ウ 大人向け！ドローン講座（初級編）

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
令和7年 3月26日(水) [予定]	ドローンを操作する上での初歩的なルールや操作方法を学ぶ	合同会社クリエイト キッズ代表 小平 文和 NPO法人 ひと・まちねっとわーく 村岡 康秀(サブ講師)	内原市民センター	市内在住又は通勤・通学する成人の方 (午前の回) 定員 12人 募集期間中 (午後の回) 定員 12人 募集期間中	—

(2) 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

現在の登録者数は、人材育成講座「さがけ塾」第一期修了生から第八期修了生まで合計 65 人。

ア 生涯学習サポーター研修会の開催

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和 5 年度
令和 7 年 2 月 4 日 (火)	人生 100 年時代を学び 続けるために ～魅力ある講座づく りとは～	茨城県水戸生涯 学習センター次長 兼企画振興課長 鈴木 昭博	水戸市福 祉ボラン ティア会 館	生涯学習 サポーター 23 人	—

イ 生涯学習サポーター協働企画講座

○ 町名の変遷からみる水戸の町づくり

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和 5 年度
① 11 月 13 日 (水)	水戸藩黎明期と徳川 斉昭の町づくりが現 在の県都にどのよう	水戸・歴史に学ぶ会 代表 齋藤 郁子	千波市民 センター	市内在住また は通勤・通学す る成人で、2 回 とも参加可能 な方	—
② 12 月 16 日 (月)	に結びついているの かを学び、地域への愛 着を深める ①江戸時代 黎明期 徳川御三家の一つ の藩として、水戸の 城下町を築いた江 戸時代黎明期の町 づくり ②江戸時代 後期 幕政にも影響を与 えた、徳川斉昭が実 行した水戸藩の天 保の藩政改革			定員 40 人 応募者 48 人 参加者 ①43 人 ②40 人	

○ ときめく毎日のために～秋の健康講座～

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和 5 年度
① 11 月 1 日 (金)	食やセルフケアを通 して、生活習慣病予防	① 株式会社フローラ 薬剤師・薬学博士 国際中医薬膳師 篠原 久仁子	水戸市福 祉ボラン ティア会 館	市在住または 通勤・通学する 成人で、全日程 に参加可能な 方	—
② 11 月 8 日 (金)	のための身体をつく る				
③ 11 月 29 日 (金)	①食を通して健康に ～リスクを防ぐ薬 と薬膳の知恵～ ②オーラルケアで健 康に～毎日を楽しむ ためにはお口の健康が あってこそ～ ③ひもトレ&セルフ リンパマッサージ ～ひも 1 本で健康に～	② 茨城県歯科衛生士会 副会長 伊藤 敦子 ③ Be natural 主宰 古谷 久生子		定員 30 人 応募者 70 人 参加者 ①27 人 ②30 人 ③23 人	

○ 充実人生を一心・からだ、そして学び直しの生活をー

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 11月26日(火)	心身の健康増進・維持 と自己実現・成長のた めの活動	① 生涯学習サポーター 金澤 正巳	みと文化 交流プラ ザ	市内在住また は通勤する方	
② 令和7年 1月17日(金)	①「大人の学び直し」 -これからの生涯学 習-	② アイリッシュハーブ 演奏者 野村 陽子		定員 30人 応募者 36人 参加者	
③ 2月7日(金)	②「歌って動いて健康 寿命を延ばそう」 -めりはりのある身 体づくりを心がけ よう-	生涯学習サポーター 坂本 勝江		①25人 ②18人 ③12人	—
	③「心豊かに生涯読書」 -心に栄養を-	③ 水戸古事記に親しむ会 代表 佐藤 安彦 生涯学習サポーター 小網 昇			

○ 親子でチャレンジ!!

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 11月30日(土)	親子でチャレンジす る3つのアクティビ ティーを通して感動 を共有し絆を深める	① ヒップホップ インストラクター SANAE&KAREN	常磐市民 センター	市内在住又は 通学する小学 3～6年生と その保護者	
② 12月14日(土)		② 読み聞かせ屋サチエ		定員 16組 32人	
③ 12月21日(土)	①親子ヒップホップ ～ビートに乗って 楽しくおどろう!!～	③ 元学校教員 鈴木 俊之		応募者 5組 12人	—
	②絵本で楽しもう ～絵本は心に寄り 添うお友達!!～			参加者 ①5組 12人 ②3組 8人 ③3組 7人	
	③サイエンス ラボ ～びっくり体験を しよう!!～				

※保護者一人に対し、子どもが複数人参加している場合あり

(3) 子育て応援塾の開催

ア 家庭教育講座

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
9月21日(土)	グループディスカッ ションやロールプレ イニングなどの体験学 習を通して、自己肯定 感を高め、コミュニケ ーション力を磨き、親 と子がお互いを大切 にしながら日々を過 ごすための方法を学 習する 「ありのままの自分 でハッピー子育て」	コミュニケーションイン ストラクター 中島 由佳子	総合教育 研究所	市内在住又は 通勤・通学する 方で子育てに 関心のある16 歳以上の方(子 育て中の方優先)	市内在住又は 通勤・通学する 方で子育てに 関心のある16 歳以上の方(子 育て中の方優先)
				定員 25人 応募者 25人 参加者 25人	定員 25人 応募者 31人 参加者 21人

令和7年 2月15日(土)	身近な資材を使った 「エコ電池作り」を体験することで、環境やエネルギー問題についての理解を深め、持続可能な未来を意識するきっかけを作る。また、親子のコミュニケーションを促進し、共同で問題解決に取り組む経験を通じて親子の信頼関係を深める 「親子で挑戦 備長炭でつくる電池のひみつ」	一般財団法人 関東電気保安協会 深谷 正樹	総合教育 研究所	市内在住又は通学する小学生とその保護者 定員 20組(40人) 応募者 38組(76人) 参加者 19組(38人)	—
------------------	---	-----------------------------	-------------	---	---

イ 家庭教育出前講座

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
7月30日(火)	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	ちやいる どはうす 保育園	ちやいるどはうす 保育園 保護者 23人	—
7月31日(水)	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	ちやいる どはうす 森の保育園	ちやいるどはうす 森の保育園 保護者 23人	—
8月9日(金)	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	さんさん 保育園	さんさん保育園 保護者 9人	—
8月24日(土)	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	彩の国 保育園	彩の国保育園 保護者 6人	—
8月28日(水)	未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ	朗読家 見澤 淑恵	ちやいる どはうす 保育園 (子育て支援センター)	ちやいるどはうす 保育園(子育て支援センター) 保護者 6人	—
8月31日(土) 台風のため中止	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	わくわくの森 保育園	わくわくの森 保育園 保護者 一人	—
9月7日(土)	忙しいからこそ知って良かった親業	コミュニケーション インストラクター 中島 由佳子	彩の国 保育園	彩の国保育園 保護者 8人	—
令和7年 1月25日(土)	どうするいやいや期	茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	はぐくみの森 あさひ保育園	はぐくみの森 あさひ保育園 保護者 7人	未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ 保護者 6人

(4) 「さがけ塾」の開催

第八期「さがけ塾」

月日	内容	講師	開催場所	参加者	第七期
6月12日(水)	市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、市民目線の講座の企画・実施に参画する人材の育成を図る さがけ塾第八期生修了式	元学校長 比留間 範之	見和市民センター	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 15人 応募者 11人 参加者 2人 修了者 3人	生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民 定員 15人 応募者 14人 参加者 13人 修了者 13人

(5) 「さがけ塾」塾生との協働企画講座の開催

充実したセカンドライフ ～生きがい探し～

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 5月16日(木)	60歳からの心とカラダの健康づくりを学ぶ	① 茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介	内原市民センター	市内在住又は通勤するおおむね60歳以上の方 定員 30人 応募者 32人 参加者 ①26人 ②27人	—
② 5月30日(木)	①セカンドライフの時間の過ごし方で人生の輝きが変わる ②年齢に負けないカラダづくり	② 原外科医院 院長 原 毅			

(6) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修

ICT講座

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
8月7日(水)	SNSの使い方についての解説等を行い、デジタルリテラシーを身に付けて安心・安全にインターネットを楽しむためのキーワードを実際に体験しながら学ぶ 「デジタルライフの第一歩～安心・楽しいSNS入門～」	スマートフォンアドバイザー ドコモショップ水戸南店 照山 真衣 ※サポート講師2名	笠原市民センター	市内に居住または通勤する方 定員 15人 応募者 10人 参加者 9人	スマートフォンを安全に使うためのポイントを実際に体験しながら学び、また、マイナンバーカードの申請方法についての解説等も行う 定員 各会場 10人 応募者 合計 29人

					参加者 千波市民 センター9人 内原市民 センター10人 上大野市民 センター7人
12月9日(月)	キャッシュレス決済の普及を促進し、市民がキャッシュレスの利便性や安全性を理解し、市民が実際に利用できる能力を向上する一助とする。また、地域経済の活性化にも寄与することを目指す 「キャッシュレス時代を生きるために」	水戸市消費生活センター 事務長 藤咲 利枝子	桜川市民 センター	市内に居住または通勤・通学する成人の方 定員 30人 応募者 52人 参加者 24人	—

(7) プログラミング講座

ア 夏休みプログラミング教室

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
8月8日(木)	1組1台のパソコンを使用し、自動車型ロボット「mBot(エムボット)」で楽しくプログラミングの基礎を学習する 「親子でロボットプログラミング体験」	合同会社クリエイト キッズ代表 小平 文和 茨城工業高等専門学校専攻科 川崎 丹瑚(サブ講師)	千波市民 センター	市内在住又は通学する小学4～6年生とその保護者 (午前の回) 定員 10組 応募者 34組 参加者 10組 (午後の回) 定員 10組 応募者 29組 参加者 9組	市内在住又は通学する小学5～6年生 (午前の回) 定員 20人 応募者 38人 参加者 20人 (午後の回) 定員 20人 応募者 24人 参加者 20人

イ 春休みプログラミング教室

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
令和7年 3月25日(火) [予定]	1組1台のパソコンを使用し、自動車型ロボット「mBot(エムボット)」で楽しくプログラミングの基礎を学習する 「親子でロボットプログラミング体験」	合同会社クリエイト キッズ代表 小平 文和 NPO法人 ひと・まちねっとわーく 村岡 康秀(サブ講師)	千波市民 センター	市内在住又は通学する小学4～6年生とその保護者 定員 10組 募集期間中	—

(7) 子育て支援講座の開催

ア パパといっしょに夢らんど

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 5月18日(土)	(パート1) 2,3歳児とその保護者	① 子どもアート講師 綿引 真宏	常磐市民センター	市内在住又は通勤する保護者とその子ども(2,3歳児)	市内在住又は通勤する保護者とその子ども(2,3歳児)
② 6月15日(土)	座を実施することで、	② フードインストラクター		定員 16組 32人	定員 16組 32人
③ 7月6日(土)	子育て中の親同士が 出会い、情報交換の場 を作り、楽しみながら 子育てできるよう支 援する	③ 保育士・ 子ども環境管理士 鯉渕 裕志		応募者 15組 30人	応募者 32組 64人
	①親子アート ②親子簡単クッキング ③親子運動遊び			参加者 ①14組 28人 ②12組 24人 ③9組 18人	参加者 ①14組 28人 ②15組 30人 ③14組 28人
① 10月19日(土)	(パート2) ①親子簡単クッキング	① フードインストラクター 軽部 知美	上大野市民センター	市内在住又は通勤する保護者とその子ども(2,3歳児)	市内在住又は通勤する保護者とその子ども(2,3歳児)
② 11月16日(土)	②親子アート	② 子どもアート講師 綿引 真宏		定員 16組 32人	定員 16組 32人
③ 12月7日(土)	③親子運動遊び	③ 保育士・ 子ども環境管理士 鯉渕 裕志		応募者 18組 36人	応募者 8組 16人
				参加者 ①12組 24人 ②12組 24人 ③7組 14人	参加者 ①5組 10人 ②4組 8人 ③4組 8人

イ ほっとひといきママたいむ

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
① 5月21日(火)	(パート1) 子育て中の保護者が、	① 産後 TOMO サポ代表 多田 佑実	総合教育研究所	市内在住の乳幼児(就学前)	市内在住の乳幼児(就学前)
② 6月4日(火)	子どもと離れる時間 を持ち、育児に関する	② 茨城県歯科衛生士会 副会長 伊藤 敦子		のお子さんを もつ保護者	のお子さんを もつ保護者
③ 6月18日(火)	テーマについて学び、 他の保護者と意見交 換をする機会を設け ることにより、リフレ ッシュするとともに 家庭教育について考 える一助とする	③ 常磐短期大学 幼児保育学科准教授 木村 由希		定員 16人 応募者 22人	定員 16人 応募者 34人
				参加者 ①9人 ②11人 ③15人	参加者 ①10人 ②12人 ③10人

	①ママの身体と心のメンテ ②仕上げ歯磨き ③トイレトレーニング				
① 9月11日(水) ② 9月25日(水) ③ 10月9日(水)	(パート2) ①子育てマネープラン ②スクラップブッキング ③どうするいやいや期	① ファイナンシャルプランナー 高村 浩子 ② スクラップブッキングインストラクター 水田 留美子 ③ 茨城女子短期大学 こども学科非常勤講師 橋本 祥子	桜川市民センター	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 22人 参加者 ①15人 ②16人 ③13人	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 27人 参加者 ①13人 ②11人 ③12人
令和7年 ① 1月16日(木) ② 1月30日(木) ③ 2月20日(木)	(パート3) ①ちょこっとおかたづけ ②とっさの時の救急対応 ③叱っちゃいけないの	① お片付けてる代表 整理収納アドバイザー 國生 輝枝 ② 一般社団法人 水戸地区救急普及協会 ③ 株式会社RION 代表取締役 鷲田 美加	総合教育研究所	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 21人 参加者 ①12人 ②13人 ③ 人	市内在住の乳幼児(就学前)のお子さんをもつ保護者 定員 16人 応募者 47人 参加者 ①13人 ②14人 ③13人

(8) 「あなたも師・達人制度」の活用促進

	登録者数(人)	派遣依頼件数(件)	派遣件数(件)	派遣人数(人)
令和6年度	316	15	7	7
令和5年度	315	8	8	8

※令和6年度は令和7年1月末現在

(9) 育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進

ア 派遣回数

	登録者数(人)	派遣件数(件)	派遣人数(人)	預かった子ども(人)
令和6年度	51	21	136	138
令和5年度	51	18	144	146

※令和6年度は令和7年1月末現在

イ 育児ボランティア研修会の開催

月日	内容	講師	開催場所	参加者	令和5年度
4月24日(水) ①午前の回 ②午後の回	普通救命講習Ⅲ	一般社団法人 水戸地区救急普及協会	水戸市福祉ボランティア会館	育児ボランティア「えくぼ会」会員 ①15人 ②12人	育児ボランティア「えくぼ会」会員 ①17人 ②15人

令和7年 2月28日(金)	託児ボランティアの 心得	常磐短期大学 幼児保育学科准教授 木村 由希	総合教育 研究所	育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員	託児ボランテ ィアの基礎知 識 育児ボランテ ィア「えくぼ 会」会員 25人
------------------	-----------------	------------------------------	-------------	--------------------------	--

(10) 学習情報の提供

- ア みと好文カレッジホームページへの事業等の掲載
- イ みと好文カレッジ情報誌の発行

(11) 学習相談事業の充実

ア 相談者状況（件）

	行政	団体	個人	合計
令和6年度	11	3	22	36
令和5年度	19	5	40	64

イ 相談・情報提供状況（件）

	学習機会	施設	指導者	団体・グループ	教材（図書）	その他	合計
令和6年度	18	1	6	-	-	11	36
令和5年度	28	-	16	2	-	18	64

ウ 相談方法状況（件）

	電話	面談	F A X	メール	合計
令和6年度	35	-	-	1	36
令和5年度	62	1	-	1	64

※令和6年度は令和7年1月末現在

(12) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業

NPO法人 ひと・まちなっとわーくの講師を活用した出前講座を開催する予定だったが、今年度は、小学校からの申請はなかった。

イ 株式会社NTTドコモとの連携事業

「デジタルライフの第一歩～安心・楽しいSNS入門～」を、総務省が実施している「利用者向けデジタル活用支援推進事業」に参画しているNTTドコモの講師を活用して実施した。詳細は「2全市的な生涯学習の推進 (6) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修 「デジタルライフの第一歩～安心・楽しいSNS入門～」を参照。

ウ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、同講師を活用した講座の開催を市民センターに提案した。本提案により、竹隈市民センター（女性教養）、吉沢市民センター（女性教養）、新莊市民センター（女性教養）、酒門市民センター（高齢者教育）、山根市民センター（高齢者教育）、渡里市民センター（高齢者教育）、稲荷第二市民センター（高齢者教育）が講座を開催した（令和7年1月報告分まで）。

(13) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

ア 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

協議会委員 6 人

開催回数	日時
2 回	令和 6 年 8 月 30 日（金）午前 10 時～ 令和 7 年 2 月 18 日（火）午前 10 時～

イ 水戸市訪問型家庭教育支援員による家庭訪問等の実施

支援員 11 人

	ケース会議(回)	個別訪問世帯数(世帯)	個別訪問回数(回)
令和 6 年度	8	17	24
令和 5 年度	11	23	39

※令和 6 年度は令和 7 年 1 月末現在

【小学校 1 年生世帯全戸訪問】

保護者にはあらかじめ学校を通し、全戸訪問について文書にて周知を図り、2 人 1 組で訪問した。訪問にあたっては、玄関先にて短時間で行い、児童の家庭での様子等を聞き取り、事業について周知をした。不在であった場合には、個別訪問希望の有無についてのアンケートをポストへ投函し、提出するよう依頼した。さらに、令和 7 年 1 月～2 月に全訪問世帯に事後アンケート調査を実施し、効果の検証を行うとともに、再度事業の周知を行っている。

	城東小学校	鯉淵小学校
訪問世帯数	24 世帯	32 世帯
面会世帯数	20 世帯	30 世帯
不在世帯数	4 世帯	2 世帯

ウ 広報活動

- 水戸市ホームページに掲載
- 保健所・子育て支援課・こども政策課・市民課・各出張所にチラシ配布依頼
- 子育て支援総合ガイドブックに掲載
- 幼稚園・保育所等にチラシ配布・ポスター掲示依頼
- 市立小学校等にチラシ配布・ポスター掲示依頼、就学時健診時のチラシ配布依頼
- 市民センターにチラシ設置・ポスター掲示依頼
- 「広報みと」（5 月 15 日号、8 月 1 日号）に記事掲載
- SNS（公式 LINE、X、Facebook）にて情報配信

エ 支援員による出張訪問の実施

- 就学時の健康診断を活用した事業周知（双葉台小学校）
就学時健診の際に開催した家庭教育講演会の時間を利用して、事業を周知するとともに、支援員による出張相談を実施した。
- 入学説明会を活用した事業周知・面談（柳河小学校）
新入学児童保護者説明会時に、入学予定者の保護者（6 人）と 1 人 5 分程度の支援員による面談を実施した。当日、アンケートに答えてもらいながら、保護者の入学にあたって不安なことを聞き取りし、事業について周知した。
- 支援員による幼稚園・認定こども園訪問
市立幼稚園・認定こども園のうち、希望があった園を訪問し、保護者へ事業を周知するとともに、支援員による出張相談を実施した。
訪問園数 延べ 2 園（1 学期 1 園、3 学期 1 園（3 月 4 日訪問予定））
相談実施者数 延べ 5 人
※令和 7 年 1 月末現在

令和6年度みと好文カレッジ実施事業評価（令和7年1月末現在）

<東湖塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
50 千円 (報償費)	10 千円	・ 事業実施目的達成度	A
評価・課題 ・ 訪問研修について、前期は新任職員がいる9か所の市民センターで、後期は全34市民センターで実施し、各市民センターの実情に応じたアドバイスを行った。 ・ 例年実施している「救急救命講習」及び新たな集合研修（「熱中症対策について」、「コミュニケーションスキル向上について」、「魅力的な講座の作り方について」）等を開催した。			

<好文塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
202 千円 (報償費、賃借料)	188 千円	・ 事業実施目的達成度 ・ 定員に対する応募人数、参加人数 ・ 受講者アンケート結果	A
評価・課題 ・ 人生100年時代に向けて、今からできる家計管理や資産形成・運用と、相続に関する手続き等、今後に係るお金の基礎知識をプロから学ぶことで、将来安心して充実した生活を送るための支援を図ることをねらいとして3回シリーズとして実施した。 ・ 受講者アンケート結果は、「現在やるべき事が少し見えてきたように思う。」など、良かったという声が多かった。			

<みと弘道館大学（茨城しぐさ、大人向けドローン講座（初級編）等の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
100 千円 (報償費)	30 千円	・ 事業目的達成度 ・ 受講者アンケート ・ 定員に対する応募人数、参加人数	A
評価・課題 ・ 茨城しぐさについては、今年度の申し込みはなかったが、学校長会連絡会での説明など周知を図り、来年度も実施していく。 ・ これからの社会においては、様々な分野で活躍するドローンに関する知識・技能を備えた人材が求められることから、人材育成の一助とするため、ドローン进行操作する上での初歩的なルールや操作方法を学ぶ講座の開催を企画したところ、募集定員を大幅に上回る応募があった。			

<水戸市生涯学習サポーター活動の推進 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
652 千円 (報償費)	213 千円	・ 3 か年実施計画 目標値 協働企画講座 6 講座 ・ 事業目的達成度 ・ 定員に対する応募人数, 参加人数 ・ 受講者へのアンケート結果	B
評価・課題 ・ 生涯学習サポーター 65 人 (令和 7 年 1 月末現在) ・ 協働企画講座実施数… 4 講座 ・ サポーターが家庭教育, 健康, 歴史と様々なジャンルから企画し, 市民目線での講座を市民に提供することができた。 ・ 定員程度または定員以上の応募があった。 ・ 受講者へのアンケート結果については, いずれも高評価だった。			

<子育て応援塾の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
110 千円 (報償費)	100 千円	・ 事業目的達成度 ・ 受講者アンケート ・ 定員に対する応募人数, 参加人数	A
評価・課題 ・ 概ね定員程度の応募があった。 ・ 受講者へのアンケート結果については, 「自分軸を持つこと, 心に余裕を持つ事が大事」, 「子どもも大切ですが, 自分も大切に作る, そうすると相手を考えて対応・行動できるようになると思いました。」など高評価だった。 ・ 出前講座については, 8 件の申し込みがあった。(うち 1 件は, 台風接近のため中止)			

<「さきがけ塾」塾生との協働企画講座の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
60 千円 (報償費)	40 千円	・ 事業目的達成度 ・ 受講者アンケート ・ 定員に対する応募人数, 参加人数	A
評価・課題 ・ 人生 100 年時代, これからの人生を自分らしく健康に元気に生き抜くために, 60 歳からの心とカラダの健康づくりを学ぶことをねらいとして, 2 回シリーズとして実施した。 ・ 「未来の自分はどうしたいのか, 独り暮らしになにが大切なのかとても参考になりました。」 「夫, 仲間を尊重して生活していきたいと思います。」など高評価だった。			

<ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
—	—	・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数、参加人数	A
評価・課題 ・スマホを安全に使うためのポイントを盛り込んだ、「スマホ体験講座」を開催した。 ・市民がキャッシュレスの利便性や安全性を理解し、市民が実際に利用できる能力を向上することをねらいとして、「キャッシュレス時代を生きるために」を実施した。 ・「通信料金とキャッシュレス決済の請求を分ける事等、良かったです。」「最近キャッシュレス決済を使ってるので大変参考になりました。」など高評価だった。 ・定員程度の応募があった。			

<プログラミング講座の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
167 千円 (報償費, 賃借料)	78 千円	・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数、参加人数	A
評価・課題 ・子ども向けのプログラミング講座を開催したところ、定員以上の応募があり、とても盛況だった。 ・「試行錯誤することの『楽しさ』を味わえたとても貴重な体験でした。」「設定次第で素直にロボットくんが動いてくれる！という事を直接見て、肌で感じる事（体験）とても勉強になりました。」など高評価だった。 ・定員を超える応募があった。			

<子育て支援講座の開催 事業評価>

予算額	決算見込額	指標	評価
265 千円 (報償費, 保険料)	145 千円	・事業目的達成度 ・受講者アンケート ・定員に対する応募人数、参加人数	A
評価・課題 ・保護者向けの「パパといっしょに夢らんど」は、参加者アンケート結果でも「普段、家ではできない事だったので、今回の経験を子どももする事ができてよかった。」「身体を使った運動はとても子どもが喜んでいたので良かった。」など、高評価だった。 ・「ほっとひといきママたいむ」は、昨年度同様、3回開催した。フリートークの時間は、保護者同士の交流の場となり良かった。なお、応募については、パート1、パート2、パート3のすべてにおいて、定員程度又は定員を超える応募があった。			

＜育児ボランティア「えくぼ会」制度の利用促進 事業評価＞

予算額	決算見込額	指標	評価
35 千円 (報償費, 保険料)	26 千円	・ 事業目的達成度	A
評価・課題 ・ 育児ボランティア活動中、事故や災害があった時のために応急手当の方法、「自動体外式除細動器 (AED)」の使用法について、とっさの時に対応できる救命法を学ぶことができた。 ・ 現在の託児の注意事項等を再確認するとともに、「えくぼ会」の活動での疑問点等を共有するなど会員同士の交流が図れた。			

＜水戸市訪問型家庭教育支援事業 事業評価＞

予算額	決算見込額	指標	評価
1,229 千円 (報償費等)	753 千円	・ 3 か年実施計画 訪問件数目標値 90 世帯 ・ 事業目的達成度	A
評価・課題 ・ 公立の幼稚園園長会、保育所所長会、民間の幼稚園協会及び保育園長会に出席し事業説明を行い、チラシ配布等を依頼した。 ・ 2 小学校区の小学 1 年生のいる世帯 (56 世帯) に対して、全戸訪問を実施した。 ・ 就学時健康診断時や新入学時保護者説明会において、事業周知を行った。 ・ 訪問型家庭教育支援員を増加した。今後、就学時健康診断や新入学時保護者説明会における事業周知などを実施するに当たり、教員 O B の支援員確保が課題である。			

※事業評価基準

評価	評価基準
A	目標を達成することができた。前年度に比べ、成果が向上した。
B	目標を達成することができた。前年度と比べ、成果は同程度の水準であった。
C	目標の達成に向け取組を進めたが、一部達成できなかった。

(2) 令和7年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子・高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことから、より専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員に、生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代に合った新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (7) 新任職員研修（集合研修，訪問研修）
- (4) 全体研修（集合研修，ブロック研修，訪問研修）
- (9) 学習プログラム作成研修（ブロック研修，訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (7) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (4) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (7) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (4) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価を実施していく。

- (7) 市民センターによる自己評価の実施
- (4) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (9) みと好文カレッジによる事業評価制度の実施

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代に合った講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

(7) 茨城しぐさ

(i) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

(7) 家庭教育講座

(i) 家庭教育出前講座

ウ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さきがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。また、生涯学習サポーターに対する研修会の開催など、サポーター自身が、日々変化している現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。

エ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発、研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体等でも実施できるよう支援する。

オ パパといっしょに夢らんど、ほっとひといきママたいむの開催

家庭教育支援事業の一環として、未就学児とその保護者を対象に、親子で活動する場や親同士、育児ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、育児に対する悩みや不安を解消し、楽しみながら子育てできるよう支援する。

カ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

キ 育児ボランティア制度の活用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

ク 学習情報の提供の充実

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジの事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

ケ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

コ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図り、協働で現代的課題や地域の課題についての学習プログラムを作成、開催する。

サ 訪問型家庭教育支援事業の拡充

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者への個別訪問等の拡充を図る。あわせて、市内1～2小学校区の小学1年生のいる世帯への全戸訪問や就学時の健康診断、入学説明会を活用した出張訪問を実施するとともに、新たに希望する私立幼稚園への出張訪問を実施し、子どもの生活習慣に関する相談等に対応することにより、さらなる家庭の教育力の向上を目指す。

(3) 令和7年度みと好文カレッジ事業実施計画（案）について

1. 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決のための学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

研修方法は、一堂に会する「集合研修」と各市民センターへ出向く「訪問研修」を取り入れる。

ア 新任職員研修

市民センターに人事異動により新たに着任した者や新規採用者を対象に、市民センター職員として事務事業を遂行するための基本的知識を身につける。

(7) 集合研修

- 対象者 令和7年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員
- 日 時 4月予定
- 会 場 本庁舎（予定）
- 内 容

内 容	説明者
市民センターについて	市民生活課
地域防災について	防災・危機管理課
生涯学習の推進について	みと好文カレッジ
電送窓口関係について	市民課

(4) 訪問研修

- 対象者 令和7年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員
- 日 程 6月頃、対象者を訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

イ 全体研修

市民センター職員として、生涯学習の中の社会教育事業を推進していくための基礎知識の習得や事業の企画立案の進め方等、職員の支援にあたる。

(7) 集合研修「第1回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(4) 集合研修「第2回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター職員（所長又は会計年度任用職員）
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅰ

(ウ) 集合研修「第3回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(イ) 集合研修「市民センター所長研修会」

- 対象者 市民センター所長
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(オ) 訪問研修

- 対象者 社会教育事業担当職員
- 日 程 10月～12月頃に、対象者を訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

※計画訪問のほか、市民センターからの要請を受け、随時、実施する。

(カ) ブロック研修「意見交流会」

- 対象者 ①西部ブロックの会計年度任用職員
②北部ブロックの会計年度任用職員
- 日 時 8月～9月を予定（2時間程度）
- 会 場 ①上中妻市民センター
②飯富市民センター
- 内 容 市民センターにおける生涯学習事業等を進める上で疑問に感じている事について、同じ業務に携わる会計年度任用職員が一堂に会し意見交換を行うことにより、ブロック内職員の交流を深め事務の効率化を図る一助とする。

ウ 学習プログラム作成研修

社会教育事業に従事する職員として、高度で多様化した住民のニーズに対応するため、専門的・実践的な知識や技術を身につけ、地域住民に様々な学習の機会を提供する必要がある。

そこで、市民センターの職員を対象に、現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得することを目的とする。

- 対象者 南部ブロックの会計年度任用職員
なお、研修を希望する個別の市民センターにも対応する。
- 日 程 6月～8月（4回程度実施予定）
- 会 場 笠原市民センター
- 内 容 同じブロックの職員が共同で地域課題の整理や学習プログラムのテーマを選定し、ブロック内の地域住民を対象とした講座を企画・実施する。

(2) 好文塾

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が、市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ、市民センターとみと好文カレッジとの共同事業として開催する。また、作成した学習プログラムが全ての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ、市民センター活動を支援する。

南部ブロック好文塾

○対象者 南部ブロック内住民

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果を生活の充実や向上に活かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による学習プログラムを市民に提供する。

ア 茨城しぐさ

「相互扶助」や「共生」の精神を学び、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ための方策を考えることにより、規範意識の向上と良好な人間関係を築く一助とすることを目的とする。

○対象者 小学4年生から中学3年生及びその保護者（学校単位で実施）

○日 程 令和8年2月末日まで随時

○講 師 NPO法人 ひと・まちねっとわーく

○内 容 授業参観、PTA研修会、総合的な学習の時間等、希望があった場に講師の派遣を行い、ロールプレイや講義を通して人付き合いの心構えを学ぶ。

イ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さきがけ塾」の修了生が水戸市生涯学習サポーターに登録し、みと好文カレッジとの協働企画講座や、市民センターとの協働企画講座を市民に提供する。

なお、現在の登録者数は、第1期生から第8期生までで65人。

(7) 生涯学習サポーター企画講座

生涯学習サポーターを4～6程度のグループに分け、企画講座を実施予定。時期は9月以降を予定。

(i) 市民センターとの協働企画講座

生涯学習サポーターから、市民センターと協働で講座を企画したいグループを1～3程度募り、実施予定。

(u) 研修会の実施

生涯学習サポーターに対し、現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。研修内容、実施時期は未定。

(2) 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

ア 家庭教育講座

子育てを控えた親や子育て中の親等が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを吐露できる場を提供するとともに、体験学習をとおして、親としての役割や子どもとのコミュニケーションについて考えることにより、家庭における教育力の向上を目指す。

○対象者 市内在住または在勤で子育てに関心のある16歳以上の方（子育て中の方を優先）

○定 員 30人（予定）

○日 時 未定

○会 場 水戸市総合教育研究所（予定）

○講 師 コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子

○内 容 グループディスカッションやロールプレイング等の体験学習をとおして、親と子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する。

※第2回の開催については、対象者及び定員、日時、会場、講師、内容等未定

イ 家庭教育出前講座

保護者が家庭教育の重要性を改めて認識し、子どもたちが家族の触れ合いを通じて、「生きる力」を育めるよう、講師が幼稚園等に出向き、家庭教育に関する講座を開催する。

- 対象者 私立幼稚園、認定こども園、民間保育園の保護者等
- 会場 各私立幼稚園、認定こども園、民間保育園
- 講師 ①朗読家 見澤 淑恵
②コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子
③茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子
- 内容 未定
- 日程 令和8年2月末頃まで随時予定

(3) ICT等の新しい技術に関する講座・研修、新しい技術を活用した講座・研修の開催

様々な世代を対象とし、デジタル技術を安全に活用するための正しい知識やスキルを身につけるための講座を開催予定。詳細については未定。

(4) プログラミング講座の開催

子ども向けのプログラミング講座を夏休みに開催予定。詳細については未定。

(5) 子育て支援講座の開催

ア パパといっしょに夢らんど

家庭教育支援事業の一環として、2，3歳児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する。

- 対象者 市内在住又は、勤務する父親と2，3歳児の親子
- 日時 パート1 5～7月頃の土曜日（全3回）を予定
パート2 10～11月頃の土曜日（全3回）を予定
- 会場 パート1 妻里市民センター
パート2 見和市民センター
- 受講者 親子16組（親1人、子1人）
- 参加費 未定
- 講師 未定
- 内容 親子運動遊び、親子アート遊び、ボディパーカッションをテーマとした内容を予定。

イ ほっとひといきママたいむ

子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする。

- 対象者 市内在住の乳幼児（就学前）のお子さんをもつ保護者
- 日時 パート1 5～6月頃（全3回）を予定
パート2 9～10月頃（全3回）を予定
パート3 1～2月頃（全3回）を予定
- 会場 パート1 水戸市総合教育研究所（予定）
パート2 桜川市民センター（予定）
パート3 水戸市総合教育研究所（予定）
- 受講者 16人
- 参加費 無料
- 託児 無料（生後6カ月～未就学児）
- 講師 未定
- 内容 未定

(6) 育児ボランティア「えくぼ会」

ア 前期研修会

育児ボランティア中、事故や災害があった時のために応急手当の具体的な説明、実技「自動体外除細動器（AED）」をとおり、とっさの時に対応できる救命法を学ぶ。

- 対象者 育児ボランティア「えくぼ会」会員
- 日 時 4月24日（木）午前・午後
- 会 場 水戸市福祉ボランティア会館
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅲ ※主に小児、乳児、新生児対象

イ 後期研修会

会場、内容、日程等については未定。

(7) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」

NPO法人 ひと・まちなっとわーくの講師を活用した出前講座を開催する。詳細は「2 全学的な生涯学習の推進 (1) もと弘道館大学の開催 ア 茨城しぐさ」を参照。

イ 明治安田生命保険相互会社との連携事業

市民センターへの支援として、「地元の『公民館』元気プロジェクト」を実施している明治安田生命保険相互会社の講師を活用した講座の開催を市民センターに提案する。

ウ 協働講座の開催

企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、協働で現代的課題や地域の課題についての講座を開催する。

(8) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

核家族化や少子化等による地域のつながりの希薄化等により、家庭教育を支える環境は大きく変化するとともに、家庭をめぐる問題は複雑化しており、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっている。

本事業においては、家庭でのしつけや子どもへの関わり方等について悩みを抱えているにもかかわらず、様々な事情により相談や保護者向けの学びの場に出ることが困難な保護者に対して支援を届け、保護者への支援を通じ子どもの育ちを支えていくことを目的にしている。

ア 支援対象

市内在住の小学校1年生までの子を持つ家庭

（開始当初は未就学児を持つ家庭であったが、令和2年度から対象拡大）

イ 支援員数

11人（元教員、保健師、ソーシャルワーカー、子育て支援団体関係者）

ウ 訪問方法

(ア) 個別申込みによる訪問

元教員や保健師、ソーシャルワーカー等の家庭教育支援員（現在11人）が、2人1組で個別に対象家庭を訪問し、家庭教育に関する相談に乗り情報提供を行い、必要に応じ専門機関へとつなぐ個別訪問を実施している。

(イ) 全戸訪問

市内2校程度（計約50世帯）を選定し、小学校1年生を持つ家庭への訪問を行う。

新入学保護者説明会や就学時の健康診断を活用し、就学予定児童の保護者への個別面談を実施する。

(ウ) 支援員による出張訪問

幼稚園の降園時等、保護者の集まる機会に、支援員による出張訪問を実施する。また、新たに希望する私立幼稚園への訪問を実施する。

エ 広報活動

(ア) 小学校、幼稚園、保育所等へのチラシ配布やポスター掲示、3歳児健康診断等でのチラシ配布

(イ) ホームページやSNSでの情報発信等

(ウ) 就学時の健康診断時のチラシ配布や保護者へ事業案内

(エ) 学校長連絡会や私立幼稚園協会、民間保育園園長会等での事業周知

オ 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

教員や子育て支援団体関係者等6人の委員からなる協議会を設置し、事業の推進方針や家庭教育支援員の活動支援に関すること等を協議する。年2回開催予定。

〇みと好文カレッジ条例

平成6年3月30日

水戸市条例第4号

改正 平成6年9月26日条例第34号

平成20年3月25日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び第31条第2項の規定に基づき、みと好文カレッジの設置等について必要な事項を定めるものとする。

(平20条例16・一部改正)

(設置)

第2条 生涯学習活動の推進を図るため、みと好文カレッジを次のとおり設置する。

名称 みと好文カレッジ

位置 水戸市笠原町978番地の5

(平20条例16・一部改正)

(職員)

第3条 みと好文カレッジ（以下「好文カレッジ」という。）に、事務職員その他必要な職員を置く。

(平6条例34・一部改正)

(業務)

第4条 好文カレッジは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習活動の振興に関すること。
- (2) 生涯学習活動に対する支援に関すること。
- (3) その他設置目的の達成に必要な業務に関すること。

(平6条例34・一部改正)

(みと好文カレッジ運営審議会)

第5条 好文カレッジの適正かつ円滑な運営を図るため、みと好文カレッジ運営審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(平6条例34・旧第5条繰下・一部改正、平20条例16・旧第10条繰上)

(組織等)

第6条 審議会は、水戸市教育委員会が委嘱する10人以内の委員をもって組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 審議会に、委員の互選により委員長及び副委員長を置く。
- 4 委員長は、審議会の会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平6条例34・旧第6条繰下・一部改正、平20条例16・旧第11条繰上・一部改正)

(会議)

第7条 審議会は、委員長が招集し、委員長は、会議の議長となる。

2 審議会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができないものとし、審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(平6条例34・旧第7条繰下, 平20条例16・旧第12条繰上)

(委任)

第8条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平6条例34・旧第8条繰下, 平20条例16・旧第13条繰上)

付 則

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

付 則 (平成6年9月26日条例第34号)

この条例は、公布の日から起算して3月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成6年教委規則第6号で平成6年12月20日から施行)

付 則 (平成20年3月25日条例第16号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

令和7年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について

運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられる豊かな地域を形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

市民センターにおいては、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努める。また、東日本大震災での経験や近年の台風大型化への警戒等を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

重 点 目 標

1 地域コミュニティ活動の推進

(1) 地域コミュニティ活動の活性化

ア 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプランの実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。

イ 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

ウ 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。特に水戸市住みよいまちづくり推進協議会との協働により、「みと町内会・自治会カード」事業の更なる魅力の向上を図る。

エ 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

(2) 地域コミュニティ活動環境の充実

市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な利用を促進するとともに、長寿命化型改修の実施及び施設の利用者数や周辺の状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

また、各市民センターのホームページの中で、地域情報を積極的に発信し、それぞれの地域の魅力向上に努める。

(3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

2 生涯学習活動の推進

(1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である市民センターにおいては、どのような状況下でも学びを止めることなく、「個人の要望」する学習による生きがいづくりを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子・高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた現代的課題を取り扱った学習機会を提供する。

そのため、水戸市における生涯学習事業を総称した「みと弘道館大学」に位置付けた、一般教養講座や定期講座を開催するとともに、みと好文カレッジにおける事業を活用しながら、市民のライフスタイルに定着し、生涯にわたって学び続けることができるよう、学習機会の充実に努める。

ア 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

イ 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくため、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。特に、デジタル・ディバイド解消のため、高齢者等に向けたICTリテラシーを身につける講座の充実に努める。

また、地域団体と市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開する。

ウ 家庭教育や子育てを支援する講座等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割があることから、家庭教育について考える機会を提供するため、学校等における家庭教育学級や家庭教育講演会を開催する。

また、未就園児の保護者が家庭教育について学び、各家庭が家庭教育に自主的に取り組むことができるよう支援するため、家庭教育強化事業を実施する。

(2) 学習の成果を生かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに生かせるよう、地域人材の発掘・育成を行い、地域の活性化や特色あるまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

ア 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用を推進する。

イ 学習の成果を発表する場の創出

市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、生涯学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネット

ワーク構築に努める。

ウ 学習の成果を地域活動に生かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に生かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につなげられるよう、人材の育成と活用に努める。

エ 事業評価に基づく事業の推進

市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で生涯学習の成果をどのように生かし、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営を図る。

(3) 家庭・地域・学校の連携の強化

家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組む体制を構築し、地域社会全体の教育力の向上を図ることができるよう、市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能充実に努める。

ア 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

地域、学校と連携を図りながら、様々な形で異なる世代での交流や大人と接する事業など、子どもたちが地域活動に参加する場を提供し、地域社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

イ 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、地域の人的資源を子育て支援事業や学校活動支援事業に活用し、家庭教育を地域社会全体で支える仕組みづくりに努める。